

盂蘭盆の月

令和五年八月法話 薬師寺管主 加藤朝胤

佛教の花は蓮の花 なぜ極楽に蓮の花が咲いているのか

極楽国土には、七つの寶の池有り。八功德水が、其の中に充滿せり。池の底には、純ら金沙を以て地を布けり。四辺に階道あり、金・銀・瑠璃・玻瓈をもつて合成せり。上に樓閣有り、亦た金・銀・瑠璃・玻瓈・碑磔・赤珠・碼碯を以て、而も之を嚴飾せり。池中の蓮華は、大きき車輪の如し。青き色には青き光あり、黄なる色には黄なる光、赤き色には赤き光、白き色には白き光あり。微妙香潔なり。舍利弗よ、極楽国土は、是の如き功德莊嚴を成就せり。 『佛説阿弥陀經』

蓮華の五徳

① 淤泥不染の徳(おでいふぜんのごん)

一般的に花は、陸地に咲いています。淤泥とは、淤も泥も泥田ということ、泥の中に咲いても、蓮の花も葉も泥に染まらず、美しい花を咲かせます。蓮の花は、泥水の中に生きて、泥水を吸って清らかで可憐な花を咲かせます。同じ事が人もできる筈です。

② 一莖一花の徳(いつつうさなごん)

多くの花は、一つの莖にたくさんの花を咲かせます。蓮の花は一つの莖に一つの花を咲かせます。一つの莖に一つの花しか咲かせません。私の代わりは私以外にいない、ということを示しています。喉の乾きを代わることも癒すことも、トイレに行くことも代わることはできません。その人の反省や感謝の心も身代わりがききません。当事者だけが救いや学びや潤いを受けることができるということですが。

身に付いた教養や芸術は、荷物になりません。どこでも出来るし、地震にも強い。泥棒にも取られないし、落としても致しません。

③ 花果同時の徳(かかぶごごのん)

蓮の花は一度に開きます。花が咲くと同時に種ができています。実際には、花が咲くと同時に種ができるわけではありませんが、ここで重要なのは、植物学的な正しさではなく、そんな事を思わせる位、蓮の花は神秘的だということ。花と実(果)は同時ということは、生まれた時から、既に佛性が備わっています。更に蓮の花は、目覚めた時一気に事が進む様が花果同時という意味です。

④ 一花多果の徳(いつかたかのとく)

蓮の花は一つの花にたくさんの実をつけています。誰もが唯一無二の存在です。誰の代わりでもありません。自らの心をしっかりと持つ事が大切です。

⑤ 中虚外直の徳(ちゆうけいげいちよくのとく)

蓮の花の茎の特徴です。茎は蓮根のように、中にいくつかの空洞があります。これが中虚ということ。外直とは真つ直ぐということ。蓮の茎は外は硬いけれど、中は空洞です。その茎が空に向かつて一直線に伸び、中虚とは蓮の茎は中に小さな穴が無数に開いていて弱そうなもの、実際は穴が開いている為に強い。外直とは真つ直ぐに伸びる強さのこと。それは、蓮の花が、極楽へ生まれる人の心の特徴を表しています。これを併せ持つ中虚外直も蓮の特徴です。

この蓮の花の五つの特徴から、極楽へ生まれる事が出来る人の心を説明しています。蓮の花には佛が降りると言われています。蓮は泥の中からでも、綺麗な花を咲かせることができます。蓮はあの泥でさえも、栄養としてしまいます。人も、世俗の混迷とした中からでも、美しい花を咲かせることができます。

泥沼をくぐりて清き蓮の花

夏たけて 堀の蓮の花見つ 佛の教え 思う朝かな

昭和天皇御製

善学菩薩道 不染世間法 如蓮華在水 従地而踊出 皆起恭敬心 住於世尊前

善く菩薩の道を学して 世間の法に染まざること 蓮華の水に在るが如し
地より踊出し 皆恭敬の心を起して 世尊の前に住せり

『妙法蓮華経 従地涌出品第十五』

蓮は泥の中で育つけれども、その泥に染まることなく、綺麗な花を咲かせます。私達もどのような厳しい環境にいたとしても、心の中は清浄に保てるということを表しています。

大賀ハス（オオガハス、おおがはす）

昭和二十六年（一九五二）千葉市検見川（現・千葉市花見川区朝日ヶ丘町）にある東京大学検見川厚生農場（現・東京大学検見川総合運動場）の落合遺跡で、三月三十日の夕刻、花園中学校の女子生徒により地下約六メートルの泥炭層からハスの実一粒が発掘されました。予定を延長し発掘作業を続けた処、四月六日に二粒、計三粒のハスの実が発掘されました。発掘されたハスの実は、今から二千年以上前の古代ハスの実であることが判明しました。五月上旬から発掘されたハスの実の発芽育成が植物学者でハスの権威者である大賀一郎博士の自宅（東京都府中市）で試みられました。二粒は発芽しませんでした。三月三十日に出土した一粒は育ち、翌昭和二十七年（一九五二）七月十八日にピンク色の大輪の花を咲かせました。

